

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和2年2月28日

事業所名 ハンズハンズ 未来育デイ

		チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	0		法令で定められている利用定員とスペースを守っている。
	2	職員の配置数は適切である	1	0	4	必要に応じて個別対応している。	法令で定められている人員配置はしているが、日によっては基準以上の職員が必要だと感じる
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0	2	3	危険個所にフェンスやゲートを設置する等して対応はしている	2階のトイレの段差につまづく子がおり、危ないと感じる。階段や2階の柵も同様に危険である。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	1	1		基本的に社員で行っているが、イベント時は、共通理解をして実施することが出来た。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0	0	アンケートをもとに改善できるところは実施している	アンケートで頂いた意見をもとに月に1度防災の日を設けることが出来た。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0	0		ホームページにて公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	2	2		第三者による外部評価は行ってないが、必要機関との連携を行っている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	1	1	できる限り外部研修には参加している	特別支援学校のオープンスクールへ行ったことで支援の支援の仕方の参考にすることが出来た。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	0		適切なアセスメントを行い、利用者、保護者のニーズ・課題を分析しサービス計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	0	3		モニタリング時に保護者の方から診断結果等資料を頂くことがある。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	0	2		プログラムは社員で決めることが多いので、会議等で全体で話し合い、活動の幅を広げていきたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	0	下校時刻や利用者のニーズに合わせてプログラムを考えるようにしている	利用者のニーズに合ったプログラムが出来るように心がけている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	0	1		個別に指導すると良いことを話し合い、どの職員でも支援に関わることが出来るが良い。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	0		利用者さんの状況に応じた活動を考え、サービス計画を作成している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	0	支援内容の計画書を作成しその日の流れを全員で把握するようにしている	サービス開始前に職員間でその日の打合せを行い、必要な情報を共有している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	1	3	支援内容の計画書にその日の振り返りを記入している	送迎等、各々の業務があるため、個々での振り返りになってしまう。翌日の支援前に行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	0	1		毎回利用者の支援について記録し職員間で共有し、支援の参考にしている。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	0	0		6ヶ月毎にモニタリングを行い、計画の見直し、新たな目標設定などを行っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	3	0	2		子どもたちが意欲的にプログラムに関わるように活動を工夫したり、のびのびと表現できる体験をする等の支援を行えるように学校と連携をはかっている。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	0	子どもの状況を一番理解している者が担当者会議に参画している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	0	0	保護者や学校と連携をはかりながら適切に連絡をとっている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	1	1	必要に応じ、保護者を介して情報共有している。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	1	1	契約時に保護者の方から資料を頂いたり、事業所に連絡を取るなどをして情報教諭をしている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	0	1	求められた際に行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1	1	必要に応じて連携している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	3	2	児童館へ聞いてみたが難しいとの回答	現状、そのような機会を設けることが難しい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	2	2		積極的にといわれると現状は難しい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	0		送迎時に保護者にその日の様子を伝えたり、連絡ノートを利用し情報共有を行っている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	2	2		連絡ノートで伝えたり、面談時や送迎時に助言等を行っている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	0		契約時に運営規定及び重要事項説明書を読みあげ説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	0		モニタリングでお話しする機会を設けている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	0	2	年に数回のお楽しみ会やあくしゅの会を開催し連携している	今後は保護者会も行っていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	0		苦情があった際の連絡手段を明確にする必要があると感じている。通信やホームページを活用するとともに、契約の際にもきちんと説明していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	0		月に一度通信を発行し、活動内容や連絡事項、注意事項について利用者及び保護者に伝えている。
	35	個人情報に十分注意している	5	0	0		契約時に個人情報の取り扱いについて説明し、ブログ等の写真掲載には留意している。また個人情報ファイルやデータは鍵付きキャビネットへ保管、PCもパスワードにて厳重に管理している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	0		個々の特性に応じた情報伝達を工夫している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	2	2		年に一度あくしゅの会を行い地域の方との連携をはかっている。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	1	2	定期的に見直しをしている。	各種マニュアルを作成し、職員会議等で定期的に周知している。保護者にも契約時に周知していくようにする。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	0	月に1度防災の日を設けて防災に関する知識を高めている	月に一度さまざまな災害を想定した訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	0	1		月に一度虐待防止チェックを職員全員が行っている。研修も機会があれば積極的に参加している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	0	2		現在、対象者がいない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1	2		アセスメントシートに記入してもらっている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	1	2		書類を作成し職員会議等で周知し職員全員で気を付けるようにしている。

事業所全体による自己評価

総評: 昨年度より全体的に評価が高くなっている。ただ、改善すべき点が昨年と変わっていないところが課題。改善目標を明確化し、実行できるように努めていく。

改善目標とその具体的方法

1. 保護者同士の連携

⇒あくしゅの会他に各季節ごとにおたのしみ会を企画している。その際に保護者会の時間も設ける

- ハンズハンズの活動内容、体験、人員配置や設備の面などを伝える場
- 昨年に引き続き、地域の民生委員さんにも声をかけ地域の方にもハンズハンズを知ってもらう場とする
- 保護者からの質問、要望を聞く場 保護者同士の意見交流の場
- 保護者、地域の方、スタッフ(理事含)との交流の場

2. 職員の配置

⇒職員の人員配置は基準を満たしているが、時間帯によっては職員の増員が必要だと感じる

- 利用人数や、活動内容を把握し、必要であれば職員の配置を増やす
- ボランティアを招き、子どもたちの関わりを幅を広げていく(地域の方との関わり)

3. 苦情対応

⇒苦情があった際の連絡手段を明確にする必要がある

- 通信やHPに記載するとともに、契約の際にきちんと説明する

4. 地域の子どもたちとの交流

⇒イベントなどをきっかけに利用者や職員の家族との関りの場を設ける

- 季節ごとに行うおたのしみ会の開催や、長期休暇には公園などの外出の機会を設ける